



InstallShield 2012 Express Edition

リリース ノート

(オリジナル リリース 2011 年 8 月、SP1 を含むアップデート リリース 2011 年 11 月)

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。InstallShield 2012 Express Edition には、最新のテクノロジーを活用し、製品の品質と信頼性を高め、生産性を向上させるための、多くの新しい機能と強化内容が搭載されています。

InstallShield 2012 Express Edition では、最新テクノロジーのサポートを提供する、いくつかの新しい InstallShield 前提条件と定義済みシステム検索が追加されました。また、この新しいバージョンでは、ISO/IEC 19770-2 ソフトウェア識別タグのビルドして、それらをインストールに含める機能が新しくサポートされています。この機能によって、エンタープライズ カスタマーに、ソフトウェア資産管理とライセンス最適化イニシアチブのための、より有用な情報を提供することができます。

リリース ノートのアップデートを含む InstallShield 2012 Express Edition についての最新情報は、ナレッジベース記事「[Q211164](#)」をご覧ください。

以下は、InstallShield 2012 Service Pack 1 における改善点および修正点です。

SP1 における変更点 (2011 年 11 月)

SP1 の取得は、ナレッジベースの記事「[Q201298](#)」を参照してください。

ソフトウェア識別タグのデジタル署名

プロジェクトで、ソフトウェア識別タグを含めるように構成し、[リリース] ビュー内のリリースに対して、.pfx ファイルを使って、デジタル署名するように構成すると、ビルド時に、タグが自動的にデジタル署名されます。タグ ファイルに署名するには、ビルドマシンに .NET Framework 2.0 以降がインストールされている必要がありますので注意してください。

IOA-000065378

InstallShield の依存関係スキャナーで、ネイティブの依存関係がある 32 ビットのマネージ DLL 用の適切な 32 ビット マージ モジュールが追加されるようになりました。以前、一部のケースで、適切な名前が付いているけれども、32 ビット プラットフォームではなく 64 ビット プラットフォームをターゲットするマージ モジュールが追加されていました。

IOA-000065386

無効なレジストリ データについて警告するビルド警告 -6637 が、"ビルド時にマージする REG ファイル" 機能設定で、複数行の値を含む .reg ファイルを指定する .NET ファイルを含むリリースをビルドした時に発生していた問題は今回解決されました。

IOA-000065468

今回より、UNIX または Mac スタイルの行末を含むレジストリ ファイル (.reg) を InstallShield プロジェクトにインポートできるようになりました。

IOA-000065625

.exe ファイルの自己登録解除が、今回より、正しく実行されるようになりました。以前、自己登録解除は失敗に終わり、実行時エラーが表示されていました。

InstallShield 2012 オリジナル リリース バージョン (2011 年 8 月) の新機\

Internet Explorer 9、SQL Server 2008 R2 Native Client、Windows Identity Foundation、その他の再配布可能ファイル用の新しい InstallShield 前提条件

InstallShield には、プロジェクトに追加することができる以下の新しい InstallShield 前提条件が含まれています：

- Internet Explorer 9
- Microsoft SQL Server 2008 R2 Native Client 10.50.1600.1
- Windows Identity Foundation
- Microsoft VSTO 2010 Runtime (x64)
- Microsoft Office 2010 PIA (この前提条件は Microsoft Office 2010 Primary Interop Assemblies をインストールします。この前提条件を使用するには、マイクロソフトの Web サイトから PrimaryInteropAssembly.exe ファイルをダウンロードおよび実行して、.msi ファイルを抽出します。)

この機能は、次の問題を解決します： IOA-000056889、IOA-000058423、IOA-000056974、IOA-000060652、IOA-000061523、IOA-000062254

COM 抽出機能の強化

InstallShield では、COM 抽出時に新しい監視方式をサポートします。Windows Vista 以降のシステム上で InstallShield を使用している場合、この新しい方式がデフォルトとなります。この方法は、カーネル ドライバーを使って、ビルド時のダイナミック COM 抽出中、およびデザイン時のスタティック COM 抽出中に変更されたレジストリ領域を監視します。この新しい方式は、DLL が既存のレジストリ エントリを読み込んでビルド マシンへの変更を妨げる以前の方式の利点を組み合わせたものです。

必要な場合、UseAPIRegistryHooks レジストリ値 (32 ビット マシンの場合は HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\InstallShield\RegSpy レジストリ キーに含まれる、64 ビット マシンの場合は HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\InstallShield\RegSpy レジストリ キーに含まれる) の値データを設定して 3 つの異なる COM 抽出方式を切り替えることができます。使用可能な REG_DWORD 値データ：

- **0** — API フックングを使って、DLL の既存レジストリ エントリを読み取ります。
- **1** — レジストリ リダイレクトを使って、ビルド マシン上で登録されている DLL への変更を防ぎます。値を設定しなかった場合、これが Windows XP および Windows Server 2003 システム上でのデフォルト動作となります。
- **2** — 両方の方式の利点を組み合わせた、新しいカーネル モード監視方式を使います。値を設定しなかった場合、これが Windows Vista 以降のシステム上でのデフォルト動作となります。

Adobe Reader 10、Internet Explorer 9、および Microsoft Office 用の定義済みシステム検索

InstallShield に新しい定義済みシステム検索が追加されました：

- Adobe Reader 10
- Internet Explorer 9
- Microsoft Office 2010
- Microsoft Office 2007
- Microsoft Office 2003

インストールでこれらの 1 つ以上が必要な場合、[要件] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンド ユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

この機能は、次の問題を解決します: IOA-000055355、IOA-000062254、IOA-000062255

ソフトウェア識別タグ機能

ISO/IEC 19770-2 は、ソフトウェア識別タグの作成に用いられている国際基準です。ソフトウェア識別タグとは、製品名、製品エディション、製品バージョン、およびパブリッシャーなどの、ソフトウェアに関する説明的な情報を含む XML ベースのファイルです。ソフトウェア資産管理ツールは、タグ内のデータを収集して、エンタープライズにインストールされたソフトウェアの正しいアプリケーション ID を提供します。

ソフトウェア識別タグは、業界標準として進化しており、独立系ソフトウェア ベンダーは、これを利用して、ソフトウェア資産管理とライセンス最適化イニシアチブのための、より有用な情報を顧客に提供する賢いアプリケーションを作成することができます。ID タグを製品のインストールに含めることにより、顧客は、社内の製品使用状況を監視するツールを利用できるようになるため、顧客が貴社より取得する貴社の製品のライセンスの数を効率的に管理および最適化することが可能になります。また、ライセンスポリシーへのコンプライアンスも維持されます。

InstallShield には、製品の識別タグを作成するために必要な情報を指定できる [一般情報] ビューに新しい設定がいくつか追加されました。また、このビューには、ビルド時にタグを自動生成するか、またはインストールに含めるかを指定できる新しい "ソフトウェア識別タグの使用" 設定も追加されました。この設定のデフォルト値は [はい] です。

"ソフトウェア識別タグの使用" 設定で [はい] が選択された時に、1 つまたは複数の必須識別設定 ([一般情報] ビューの "一意な ID"、"タグ作成者"、"タグ作成者 ID") で値を入力し忘れた場合、空白の設定に対してそれぞれ、ビルド警告 -7235 が発生します。このビルド警告では、特定の必須タグが空白であるために、ソフトウェア識別タグが作成されず、インストールに含まれなかったことが通知されます。この警告を解決するには、各設定に適切な値を入力するか、または "ソフトウェア識別タグの使用" 設定で [いいえ] を選択します。

この機能は Express プロジェクトに適用します。

重要な情報

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールし、アクティベーションを行わずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、ナレッジベース記事「Q200900」を参照してください。InstallShield のアクティベーションを行うと、機能制限が解除されます。

InstallShield、InstallShields アドオン、および再配布可能ファイルのインストールを取得する

InstallShield のインストールは、次の両方の方法で入手できます:

- InstallShield DVD をお持ちの場合、インストールは DVD に含まれているので DVD ブラウザーを使って見つけることができます。
- InstallShield と インストールは、「InstallShield のダウンロードおよびライセンスについて」の説明を参照してください。

追加のインストール (InstallShield に含まれている InstallShield 前提条件用の再配布可能ファイルおよび .NET 言語パック前提条件ファイル (.prq)) は、DVD でも提供されており、InstallShield と同じ場所からもダウンロードできます。Standalone Build を購入された場合、そのインストールは、InstallShield と一緒にダウンロードできます。

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2012 の Premier、Professional、または Express は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2012 DIM エディターは、InstallShield 2012 のどのエディションとも同じマシンにインストールすることはできません。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2012 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield と Visual Studio との統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2011 Express Edition 以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2012 Express Edition にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2011 Express Edition プロジェクトと InstallShield 2011 Express Edition 以前のバージョンから InstallShield 2012 Express Edition にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。この情報のアップデートは、ナレッジベースの記事「Q211166」を参照してください。

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2012 Express Edition を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、InstallShield 2012 Express Edition プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージボックスが表示されます。[変換する]を選択すると、変換が行われる前に、例えば 0.771 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップコピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から 0.771 を取り除いてください。InstallShield 2012 Express Edition プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできないので注意してください。

InstallShield Express Edition バージョン (InstallShield 2012 Express Edition 以前、InstallShield 12 Express Edition 以前、および InstallShield Express 5 以前) で作成した既存プロジェクトを InstallShield 2011 Express Edition にアップグレードすることができます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2012 Express Edition にアップグレードすることはできませんの注意してください。

Express プロジェクトにおけるビルド警告 -7235

デフォルトで、ソフトウェア識別タグ機能は、すべての Express プロジェクトで有効になっています。これは、InstallScript 2012 Express Edition で作成された新しいプロジェクト、および InstallShield 以前から InstallScript 2012 Express Edition にアップグレードされたプロジェクトに適用します。

Express プロジェクトで、4 つの必須識別タグ設定 ([一般情報] ビューの "一意な ID"、"タグ作成者"、および "タグ作成者 ID" 設定) にデータを入力せずにリリースをビルドすると、そのプロジェクトでタグ機能を有効のままにしておいた場合、ビルド警告 -7235 が発生します。このビルド警告では、特定の必須タグが空白であるために、ソフトウェア識別タグが作成されず、インストールに含まれなかったことが通知されます。この警告を解決するには、[一般情報] ビューで、各設定に適切な値を入力するか、または "ソフトウェア識別タグの使用" 設定で [いいえ] を選択します。

COM 抽出の変更

InstallShield では、COM 抽出時に新しい監視方式をサポートします。Windows Vista 以降のシステムまたは Windows Server 2008 以降のシステム上で、InstallShield を使用している場合、この新しい方式がデフォルトとなります。この方法は、カーネル ドライバーを使って、ビルド時のダイナミック COM 抽出中、およびデザイン時のスタティック COM 抽出中に変更され

たレジストリ領域を監視します。この新しい方式は、DLL が既存のレジストリ エントリを読み込んでビルド マシンへの変更を妨げる以前の方式の利点を組み合わせたものです。

必要な場合、UseAPIRegistryHooks レジストリ値 (32 ビット マシンの場合は HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\InstallShield\RegSpy レジストリ キーに含まれる、64 ビット マシンの場合は HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\InstallShield\RegSpy レジストリ キーに含まれる) の値データを設定して 3 つの異なる COM 抽出方式を切り替えることができます。使用可能な REG_DWORD 値データ:

- **0** — API フッキングを使って、DLL の既存レジストリ エントリを読み取ります。
- **1** — レジストリ リダイレクトを使って、ビルド マシン上で登録されている DLL への変更を防ぎます。値を設定しなかった場合、これが Windows XP および Windows Server 2003 システム上でのデフォルト動作となります。
- **2** — 両方の方式の利点を組み合わせた、新しいカーネル モード監視方式を使います。値が設定されていない場合、これが Windows Vista 以降および Windows Server 2008 以降のシステム上でのデフォルト動作となります。

この機能は Express プロジェクトに適用します。

Trialware サポート

Trialware ビューを含むのは InstallShield Premier Edition のみです。このエディションでは、Try and Die タイプの Trialware を作成できます。InstallShield は今後、Try and Buy/プロダクト アクティベーション タイプの Trialware を作成するためのサポートを含みません。

既存の InstallShield Activation Service アカウントをお持ちの場合、InstallShield 2012 で引き続き Try and Buy/プロダクト アクティベーション タイプの Trialware を作成することができます。具体的な手順については、ナレッジベースの記事「[Q200884](#)」を参照してください。

InstallShield 2012 オリジナル リリース バージョン (2011 年 8 月) のバグ修正

IOA-000059799

CustomSetup ダイアログのイタリア語バージョンで、[ヘルプ] ボタンのヘルプという語のイタリアの翻訳語が、クエスチョンマークではなく、正しく表示されるようになりました。

IOA-000060526

Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 には、Windows Installer 4.5 および .NET Framework 3.5 SP1 が必要です。そのため、このテクノロジーを 32 ビットおよび 64 ビット (Wow) システムにインストールする InstallShield 前提条件 (Microsoft SQL Server 2008 Express SP1 (x86 & x64Wow)) には、Windows Installer 4.5 および .NET Framework 3.5 SP1 の依存関係が含まれています。

IOA-000063073

Microsoft Visual C++ 2008 Service Pack 1 をインストールする InstallShield 前提条件に Microsoft's ATL セキュリティ アップデートを含む更新が加えられています。Microsoft Visual C++ 2010、Visual C++ 2008 Service Pack 1、および Visual C++ 2005 Service Pack 1 再配布可能ファイルをインストールする InstallShield 前提条件に Microsoft's MFC セキュリティ アップデートを含む更新が加えられています。

IOA-000065378

InstallShield の依存関係スキャナーで、ネイティブの依存関係がある 32 ビットのマネージ DLL 用の適切な 32 ビット マージ モジュールが追加されるようになりました。以前、一部のケースで、適切な名前が付いているけれども、32 ビット プラットフォームではなく 64 ビット プラットフォームをターゲットするマージ モジュールが追加されていました。

IOB-000059978

ベースのインストーラが、Windows Vista 以降が使用されているターゲット システム上で、昇格された権限でインストールされた製品に対して QuickPatch パッケージを作成する場合、今回より、QuickPatch をターゲット システムに適用する時、昇格された権限は必要ありません。

IOC-000086151

あるマージ モジュールが、別のマージ モジュールの依存関係としてインストール プロジェクトに含まれているとき、依存関係にあるマージ モジュールのチェックは、選択された状態で、無効になっています。以前、Microsoft C++ Runtime Library 6.0 マージ モジュールが、Crystal Reports 8.5 オブジェクト ウィザードに追加されましたが、[再配布可能ファイル] ビューで選択解除になっており、これが原因で、InstallShield がクラッシュしていました。

IOC-000086189

.NET Framework 3.5 SP1 の定義済みシステム検索は、ターゲット システム上の .NET Framework 3.5 SP1 の存在を検索します。存在しない場合、インストールを続行するためにはこのバージョンが必要であることを通知するメッセージが表示されます。以前、エラー メッセージは .NET Framework 3.5 SP1 以降が必要であることを通知しましたが、条件は特定バージョンのみをチェックしました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows XP
Windows Server 2003
Windows Vista
Windows Server 2008
Windows 7
Windows Server 2008 R2

ブラウザー

Microsoft Internet Explorer 6

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

ターゲット システム (デスクトップ コンピューター) の要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません:

Windows 2000

Windows XP

Windows Server 2003

Windows Vista

Windows Server 2008

Windows 7

Windows Server 2008 R2

ターゲット システム (モバイル デバイス) の要件

InstallShield に、Microsoft Windows Mobile Device Center または Microsoft ActiveSync を使用するデスクトップ インストールにモバイル デバイス インストール追加してファイルをモバイル デバイスに転送することができるサポートが追加されました。

InstallShield では、Windows Mobile Device Center や ActiveSync、または他のデスクトップ コンポーネントを使用しないデバイスを直接ターゲットするインストールもサポートされています。

InstallShield がサポートする各オプションの概要については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「モバイル デバイスにインストールを作成する」を参照してください。

Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です。

- Windows Mobile 6.x Professional と Classic
- Windows Mobile 6.x Standard
- Windows Embedded CE 6.x
- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro

- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

InstallShield は、この一覧にないプラットフォームもサポートしますが、デフォルトで条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。追加のプラットフォームのサポートを追加する場合、または、特定のプラットフォームをターゲットするときの条件を変更する場合、InstallShield と共にインストールされている Settings.xml を変更することができます。詳しい情報については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「使用可能な Windows Mobile プラットフォームの一覧またはその詳細設定を更新する」を参照してください。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM920
- ARM820
- ARM720
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH4
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH3
- i686
- i586
- i486
- MIPS R4000
- MIPS R3000
- MIPS R2000
- SHx SH4
- SHx SH3
- StrongARM-XScale

Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピューターの要件は以下のとおりです。

- Windows XP 上にある Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x 以降のデバイスには ActiveSync 4.x が必要です)
- Windows Vista 上の Microsoft Windows Mobile Device Center
- 管理者権限

Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピューターに必要です。

既知の問題

既知の問題の一覧は、ナレッジベース記事「[Q211166](#)」を参照してください。